

観光統計データからみる群馬県内の宿泊動向

群馬経済研究所 主席研究員 片貝弘明

調査のポイント

本稿では、観光統計データをもとに群馬県内の宿泊動向を分析した。具体的には、宿泊旅行者数の推移に加え、居住地や国籍、宿泊旅行単価から宿泊者の特徴を明らかにし、さらに、訪日外国人の行動状況を整理した。

要約

- 群馬県の宿泊者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少した後、回復に転じ、2023 年にピークを迎えたものの、近年はやや減少している。
- 県内の宿泊需要は、主に関東地方から訪れる日本人宿泊者に支えられており、宿泊者全体に占める外国人の割合は、全国的にみても低い水準にある。また、外国人宿泊者はアジアからの旅行者が中心で、台湾、中国、香港で全体の過半数を占めている。
- 宿泊旅行単価は、全国と比べて低い水準にある。これは、外国人宿泊者が少ないことに加え、関東地方からの近距離旅行が中心で、交通費などの旅行支出が相対的に少ないためと考えられる。
- 観光庁の調査によると、訪日外国人が次回の訪日時にしたいこととして、「日本食を食べること」「温泉入浴」「自然・景勝地観光」「旅館に宿泊」などが上位に挙げられている。景勝地や温泉地に恵まれた群馬県には、インバウンド需要を拡大する余地が十分にあると考えられる。
- 以上の分析結果を踏まえると、今後、群馬県では、欧米豪を含む幅広い国・地域からのインバウンド需要を取り込むため、受入環境の整備を一層進めるとともに、長期滞在の促進や観光サービスの高付加価値化を通じて、日本人を含めた宿泊旅行単価の向上を図ることが重要である。